

議会



山梨学院大学大学院
研究科長・法学部教授

江藤 俊昭

犬山市議会が市民フリースピーチ制度を採用した。3回目が第3回定例会中の9月9日に開催された。7名の公募市民が議場で市政に関する提案を行い、それを市民からの提案として議会審議に活かすというものである。議場が開放されている。発言する市民は主催者そのものとして登場した。一方的な提案ではない。提案後に議員からの質問を受ける。その議員とのキャッチボールによって提案

住民自治を進化させる犬山モデルの登場

はより明確になった。まさに、議場は市民と議員との討議空間となっている。そして、「傍聴席」では市民の提言の際には、拍手が響いていた。登壇者や議員だけではなく、傍聴者（参加する市民）も含めた討議空間だ。傍聴席（片割れで聴く席）ではなく市民席になった。

その提案を受けた議会は同じ会期中に開催される全員協議会における議員間討議によって、その後の対応を議論する。全協とは異なる性格を有するため政策討論会等の名称が妥当であろう。その提案を委員会所管事務調査とする場合、一般質問の素材にする担当を決めている。市民が議会のシンクタンクとして位置づけられる。

この市民フリースピーチは、住民自治をもう一步進める。少なくともその意義は三つある。

① 住民自治の根幹」としての議会の創造。従来から議会には地域経営における重要な権限があった。住民自治の根幹

だからである。しかし、それは有効に作動しなかった。機関委任事務体制にみられる中央集権制とともに、住民参加といえば行政への参加だけだったからである。議会は住民自治の根幹とはほど遠い。今日中央集権制は緩んだ。しかし、住民にとって議会は住民自治の根幹であるか、信頼は薄い。議会は住民の意向を吸収し政治・行政の舞台へと登場させる場となった。議会報告会や住民との意見交換会は、積極的・主体的であろうとも、議場の外での開催。市民フリースピーチは議場を市民の議会とした。陳情請願の代表者の陳述機会の設置など議場の開放は広がってきた。それを一步進めた。

② 新たな議会の創造。すでに指摘した議場の開放も新たな議会改革だ。同時に、一般質問の意味転換を行った。「最もはなやかに意義ある場」といわれる一般質問だが、あくまで個人の提言だ。議員間討議を軸に、市民の政策提言を精査し委員会の所管事務調査とするもの、および一般質問の担当者を決める。一般質問は個人から議会の質問へと転換する。一般質問の反省会を行い、追跡調査を行う議会、所管事務調査のテーマとする議会も増加してきた。また、委員会代表質問を採用している議会もある（可児市議会）。今回、一般質問を「議会の代表質問」にした。議会運営の大きな展開である。

③ 生きた主催者教育の実践、市民教育への連結。市民フリースピーチは、通告制となっている。事前に調査研究を行うことになる。しかも、録画中継もあり、発言はその場の住民からだけではなく、後世の住民からの評価される。「言いはなし」の発言ではない。ちなみに、犬山市議会では「女性議会」が開催されている。それは、多くの女性議会とは異なる。学習会から始め、ワークシートの提出、議会傍聴、議員との交流を踏まえ

た学習会、その後質問作成に向けて市民（いわゆる女性議会の議員）と現職議員との発言の調整、といったことを踏まえた女性議会である。3カ月を費やすことになる（2017年度実績）。多くの女性議会の「言いはなし」とはまったく異なる。市民はさらに主体的にかかわる。これと同様に市民フリースピーチで発言する市民は、事前の周到な準備を行うことで、責任ある発言となっている。

アメリカ合衆国ニューヨーク市出身のビアンキ・アンソニー議長がアメリカ地方議会では当たり前のパブリック・ヒヤリングを参考にしている。筆者は、かつてフォーレスト・グローブ（オレゴン州）の議会で、意見を述べる機会を得た。開議後の最初の15分は当日の議事とは関係ないことを住民が話す機会が毎回あるからである。それを活用した。当日の議事と関連ある発言は議事進行の中でその都度可能である。日本においても住民自治の原則からすれば、当然できるはずの開放型運営がなぜできないか疑問に思っていないか疑問に思っていない。

犬山市議会において、議長だけではなく住民自治を進める議員の方々の努力で可能となった。風穴を開けた新たな大きな一歩である。もちろん課題もある。いままでの発言者は極めて質の高い発言を行っている。ただし、直線的に市政に疑問を持った市民が発言する場であってもよい。当該自治体の政策や先駆的政策などを踏まえたサポート機関が必要だ。また、ルール（システム）の確立（条例、会議規則、要綱等）と、それを住民に知らせ参加する「手引き書」（会津若松市議会等）の作成も必要だ。

当日も市長は市民の発言、議員との討議に聞きいていた。市民と議員との討議空間の場を、市長等が加わった三者による討議が議場で繰り広げられる可能性を感じた。新城市まちづくり集会の議場版である。名実ともに「市民の議会」の可能性を犬山市で感じることができた。